

キャンピングカーの旅 2025

旅のチカラ研究所

2025 年 11 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

11 月の上旬、伊豆大島でキャンピングカーをレンタルして友人たちと旅をしてきた。そんなキャンピングカーと伊豆大島の魅力を紹介したい。

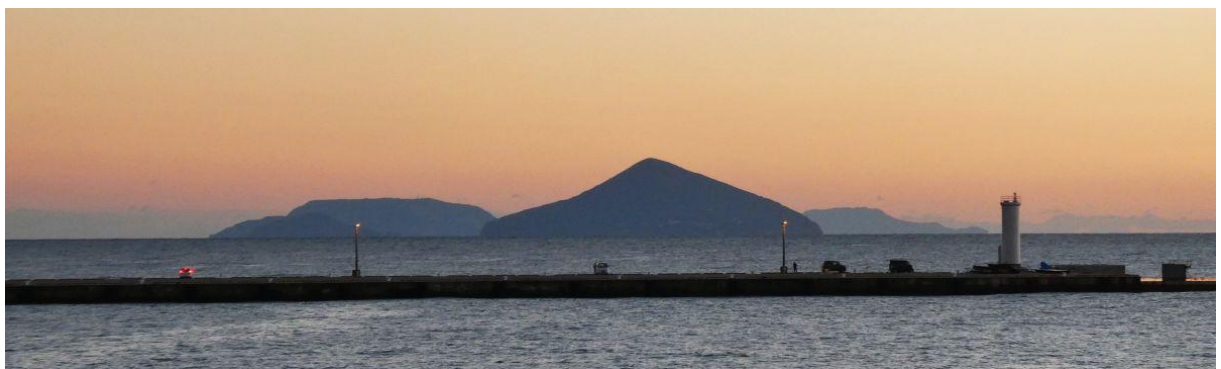
■目の前は絶景

今、私たちの目の前には普段経験したこともないような絶景が広がっている。それは太陽が対岸の伊豆半島の先端に沈もうとしているサンセットで、海の向こうには夕陽で赤く染まった空に伊豆半島と富士山のシルエットが際立って見えている。



【伊豆半島と富士山】

富士山から大きく左に目を移すと、栈橋の向こうにいくつかの島影が見える。独特の三角形の島影は利島で、そしてその背後に新島、さらに向こうに神津島も見える。



【中央が利島、左が新島、右が神津島】

伊豆半島と富士山そして利島、新島、神津島が一度に見えるポイントは、日本の地理に詳しい人でもあまり思いつかない。

それは伊豆大島で、今私たちは伊豆大島の西海岸の公園にいる。時刻は夕方の 5 時前、11 月のこの季節なので空気が澄んでいる。



【公園に停めたキャンピングカー 背後に相模湾と伊豆半島と富士山】

私たちはこの公園にキャンピングカーで乗り付けている。公園内には整備された芝生広場、綺麗なトイレに水場、キャンプ場でもないのに BBQ 施設もある。



【伊豆大島の西海岸にある公園】

九州から来た私の友人 2 人は「どうしてこんなに綺麗で、設備が整っているの？」と私に聞いてくる。私は「ここが首都東京だから、その証拠にキャンピングカーのナンバーは品川ナンバーだよ」と言うと、「えー！本当？」と叫んで、車のナンバープレートをスマホで撮っている。

■キャンピングカーの旅

今回の旅は伊豆大島だ。

ことのきっかけは、九州に住む旅友の女性 2 人が別件で上京するから伊豆大島にも行きたいと言ってきた。

九州に住む彼女たちにすれば伊豆大島は遠い場所で極めて非日常だが、私にとって伊豆大島は何十回も行っているのに、全く新鮮味がない。

それでも私は何か面白いものはないかとあれこれ考えながらプランを練っている時に、あることを思い出した。それは伊豆大島でキャンピングカーのレンタルが始まったということだ。キャンピングカーで伊豆大島を旅すればきっと面白いことになりそうだ。

実は私にとってキャンピングカーの旅はかつて1度だけ経験がある。1996年6月に北海道でキャンピングカーを借りて家族旅行をした。それから約30年ぶりのキャンピングカーを伊豆大島で再び体験できる。これならば私にとっても新鮮味がある。

早速、私は「大島キャンピングレンタカー」に電話して、空き状況などを聞いてみた。

幸いにもキャンピングカーは空いている。貸してもらえるキャンピングカーの就寝定員は6人で、今回伊豆大島へ行く予定人数は4人なので問題ない。

運転席の上のバンクベッドに2人、車の後部に常設の二段ベッドにも2人、そして中央のテーブルをしまうと大きなベッドになりここも2人寝ることができる。

装備品は冷蔵庫、エアコン、シンク（流し）、電子レンジ、コンロもあるが、調理器具と寝がない。

キャンプ歴50年、350泊の私にとってはそれだけそろっていれば全く問題なく、コッヘル（キャンプ用調理器具）と寝袋を持って行くことにした。



■伊豆大島の公園

時刻は、絶景のサンセットを眺める約3時間前のことになる。

伊豆大島に渡る東京竹芝桟橋に集まったのは九州から来た女性2人と私の3人で、残念ながら男性1人は都合がつかず不参加になった。ところがこの1人減がある意味、正解だったことが後になって判明する。

私たちは竹芝桟橋からジェット船に乗り伊豆大島にやって来る。そしてキャンピングレンタカーの会社の人に港まで迎えに来てもらい、キャンピングカーを借りて出発する。

キャンピングカーの運転はかなり気を使う。それは車幅が左右に15cmくらい広がっており、車高も50cmくらい高いからだ。伊豆大島の道路は北海道に比べれば狭いが、日本の他の島の道路に比べれば広いといっていいただろう。それでもハンドルを握る私は緊張している。

緊張感ある運転を楽しんで(?)、「仲の原園地」という公園にやって来る。時刻は夕方5時前、太陽が対岸の伊豆半島の先端に沈もうとしている。この絶景に九州から来た彼女たちは大感激している。そもそも九州の人たちにとって伊豆半島も富士山も珍しい。

太陽が沈み、観光客や地元の人たちがいなくなる。普通ならば真っ暗になるはずだが、公園内は街路灯で明るい。キャンピングカーレンタル会社の人が、この公園は街路灯があって綺麗なトイレと水場も近いからと勧めてくれた。彼には感謝だ。

さらにこの公園の隣には町営の日帰り温泉施設「御神火温泉」がある。今回は利用しなかったが、ここで温泉に浸かれるとは実にありがたい。

富士山が見える景色の良い本土のキャンプ場ならば平日でも多くのキャンパーで賑わっているが、ここには私たち以外誰もいない。完全にこの素晴らしい公園と波の音を独り占めしている。

■キャンピングカーで夕食

サンセットの後、しばらくその余韻を楽しんだ後、キャンピングカーの中に入り「乾杯〜！」という掛け声で宴（うたげ）が始まる。私も彼女たちもこのような好環境の中で、宴が始まることを正直予想していなかった。

人は予想をしていなかったことで感動すると何倍にも増幅されるという私の持論をここで実感することになる。

外は波の音だけが聞こえ夜空の星も美しい静寂の空間だ、しかし車内はまるで別世界だ。島内のスーパーで買ってきた寿司や総菜をつまみに酒が進み、宴は盛り上がる。

私たち3人はここが車の中で、伊豆大島の海岸にいることも忘れてしまっている。

キャンプと言えばBBQが定番だが、キャンピングカーを借りる時に車内でBBQはやらないで欲しいと釘を刺されていた。匂いがとれないので大変らしい。

それはむしろ私たちにとっては好都合だった。せっかくのキャンピングカーなのに車外ではもったいない。冷蔵庫にはビールが冷えていて、料理を温めるなら電子レンジもあるから鬼に金棒、虎に翼だ。



【キャンピングカーの車内の宴】

■寝床確保

キャンピングカーという好環境にも助けられ、酒が進む。あまり酔わないうちに寝床を確保しようということになり、ベッドメイキングを始める。

まず問題になったのが、キャンピングカー後部にある2段ベッドだ。下段は問題ないが、上段に登ることができない。登るためにはハシゴか踏み台が必要だが、どこを探してもそのようなものがない。仮に登っても降りることができないのは致命傷で、夜中にトイレに行けない。従って2段ベッドの上段を諦めることになる。

次にセンターテーブルをしまって中央にベッドを作る。ここに 2 人寝る仕様になっているが、2 人ではちょっと狭い。まあ今回はここに 1 人寝ればいい。

運転席の上にはバンクベッドがあり、ここが就寝定員 2 人ということだが、広さは問題ないが乗り降りに問題がある。

先になるほどに天井が低くなるので、頭を前にして寝るのはできれば避けたい。ところがバンクベッドにはハシゴで登るが、登ってから方向転換して車の先の方に足を向けるのは結構難しい。仮にそうできても降りる時に苦労しそうだ。そうかと言って進行方向横向きに寝た場合は奥に入った人は簡単に降りられない。

まあ今回はここに私 1 人が寝ればよいので、横向きに寝ることにしよう。



【後部の 2 段ベッド】



【運転席上のバンクベッド 手前がハシゴ】

結果として、3 人ならば快適に寝ることができるが、4 人はちょっと無理な気がする。1 人の不参加がこんなところで功を奏すとは思わなかった。

教訓として、キャンピングカーを大人数人で借りる場合は、就寝の仕方を事前に調べておく必要がある。

ちなみに私が 30 年前に借りたキャンピングカーは左ハンドルのアメリカ製で、トイレもシャワールームもあった。

それゆえサイズも今回の 2 倍くらいあって、小さい子供も含めた 4 人家族で泊まるには全く問題なかった。



【1996 年 北海道で借りたキャンピングカー】

■エアコンが使えない

宴は夜遅くまで続き、アルコールで体も温まっていたが、明け方は結構冷え込んでいる。11 月上旬の伊豆大島はそんなに冷え込まないと、高をくくっていたがそうでもない。

寒さで目が覚めた私はエアコンのスイッチを入れるが、1 分もしないうちにエアコンの電源が切れる。2 度 3 度やっても同様に、どうやら 12V の車内バッテリー電源を 100V の家庭用電源に変換するインバータが故障しているらしい。やはりキャンピングカーを借りる時に最低限の試運転はすべきだったと反省しきりだ。

そこでキャンピングカーのエアコンを諦めて車のエンジンをかけて車内を暖める。しかしそろそろ太陽も登り始めて暖かくなってきている。

車外に出ると清々しい空気に包まれて、実に気持ち良い。海越しに見える富士山の頂上付近は、白く雪化粧している。

熱いコーヒーをいれて、車内で朝食をとる。普通のパンとコーヒーなのに、何となくリッチな気分になるから不思議だ。

散歩に来た人たちは、そんな私たちの朝食を羨望の眼差しで見ている。いや勝手に私たちがそう思っているのかもしれないが、とにかく気持ちがいい。

私の友人に自称リゾート研究家がいるが、彼は「リゾートを支えるものは優越感だ」と言っていたことを思い出した。

■ どこへ行っても羨望の眼差し

本日はキャンピングカーに乗って伊豆大島一周に出かける。

近くにあるダイビングスポットの「野田浜」に行くと、20 人くらいの一団に出会う。聞くと学習院大学のダイビングサークルの合宿だという。その彼らが「キャンピングカー、いいですねえ」と羨ましそうに言っている。



【野田浜のダイビングスポットとダイビングサークルの面々】

直売所の「ぶらっとハウス」に立ち寄る。ここでも私たちがキャンピングカーで乗り付けたので話題はそのことから始まり、店の責任者らしき人と伊豆大島の観光について盛り上がる。

最後に名刺をもらおうと、大島町議会議員だというから熱い思いが伝わってくるはずだ。その彼が「キャンピングカーは新しい風を吹かせている」と言っていた。

「都立大島公園」の椿園と動物園を見物する。椿の花はまだ咲いていないが、動物たちが歓迎してくれる。九州の 2 人は「この公園、設備も整っていて入場無料とは信じられない」と言っている。東京都民でもない私は「ここは都立公園だよ」と、誇らしげに口にする。

「波浮の港」に立ち寄り、車内で昼食にする。といってもカップ麺の昼食だが、外からは車内で何を食べているのか分からないので、通りがかる観光客や地元の人たちは羨望の眼差しで見ている。

これが何とも言えない優越感を感じる。



【現在の波浮の港】

波浮の港は伊豆大島の南端にあって、かつては遠洋漁業で栄えた。その写真が「踊子の里資料館（旧港屋旅館）」に飾ってあった。全く異なるその様子に九州の2人は絶句していた。



【昭和26年の波浮の港の賑わいの写真】

続いて「地層大切断面」、通称“バウムクーヘン”にやってくる。

私は彼女たちにバウムクーヘンと言っただけで、2人とも本物のバウムクーヘンの工場にでも行くのかと思っていたようで、地層を見て目を丸くしている。世界各地を巡ってきた彼女たちにとっても、この地層大切断面は相当珍しいらしい。



【地層大切断面、通称バウムクーヘン】

そのバウムクーヘンを見物に来た女性観光客 2 人もキャンピングカーを見て驚いている。驚いている理由は車のナンバーが“わ”ナンバーなので、「大島でキャンピングカーが借りられるのですか？」と聞いてくる。私は「最近始めたですよ」と答える。

彼女たちは他の島からやって来た医療関係者だという。離島医療をいかに支えるかを考えながら仕事しているというから、この伊豆大島旅行もその一環かもしれない。

キャンピングカーに大変興味がありそうなので、私が「中を見ますか？」と言うと、「いいですか？」、そして「どうぞ、散らかっていますが・・・」と、まるで自分の家のように案内する。

彼女たちは「生まれて初めてキャンピングカーの中に入ったけど、凄いです、感激です」と言っていた。離島医療に使えるかもしれないと思ったのだろうか。

■キャンピングカーから軽自動車へ

キャンピングカーは 24 時間借りていたので、夕方に返却する。走行距離は約 50km になった。それは大島一周道路の総延長距離と同じで、ほぼ伊豆大島を一周したことになる。

キャンピングカーを返して軽自動車に乗り換えると、一気に緊張感がなくなり、実にリラックスして運転できる。

キャンピングカーでは細い曲がりくねった山道を避けていたので、軽自動車になって三原山登山口の「三原山外輪山展望台」に行き三原山を望む。

九州の 2 人は雄大な三原山の山体を驚きながら見ている。



【三原山】

外輪山の一角にある「大島温泉ホテル」で宿を取り、ここで再び三原山の眺望素晴らしい絶景露天風呂の温泉に浸かり、近海で獲れた新鮮な金目鯛のしゃぶしゃぶを食べて再び宴が始まる。

しかし話題はキャンピングカーのことばかりで、このホテルのことは話題にものぼらない。友人の誰を連れて来てもここの絶景露天風呂や金目鯛には感激するのだが、それよりもキャンピングカーの方が感動的だったということらしい。

かくして 2 泊 3 日の伊豆大島キャンピングカーの旅が終わる。伊豆大島には新しい風が吹き始めたような気がした。



【私たちとキャンピングカー】

■旅の記録

実施は 2025 年 11 月 3 日（月）～11 月 5 日（水）の 2 泊 3 日、その行程を示す。

- ・ 1 日目 11 時 30 分浜松町駅で待ち合わせ、「デニーズ」で昼食
13 時 30 分竹芝栈橋発のジェット船に乗り、15 時 15 分伊豆大島着、
「大島キャンピングレンタカー」でキャンピングカーを借り、
スーパーで食料を買い出し、「仲の原園地」に駐車して、車内宴会そして宿泊
- ・ 2 日目 車内で朝食を食べ 9 時出発、「野田浜」、「ぶらっとハウス」、「都立大島公園」に
立ち寄り、「波浮の港」見学後、車内で昼食、「地層大切断面」を見学、
15 時キャンピングカーを返却、軽自動車に乗り換え「三原山外輪山展望台」へ、
16 時「大島温泉ホテル」にチェックイン
- ・ 3 日目 9 時にホテル出発、「泉津の切通し」に立ち寄り、元町港へ向かい
10 時 40 分発のジェット船で竹芝栈橋に戻り、13 時に浜松町駅で解散

費用の総額は約 4 万 5 千円、詳細を記す。

- ・ 船 12160 円（竹芝栈橋～大島のジェット船往復 株主優待 35%割引後）
- ・ キャンピングカー 12833 円（1 台 24 時間 38500 円、ガソリン代別途）
- ・ 軽自動車 2000 円（1 台 24 時間 6000 円、ガソリン代込）
- ・ ガソリン代 333 円（キャンピングカーのみ約 5L で 1000 円）
- ・ 大島温泉ホテル 10230 円（株主優待で半額 ＋夕食時の飲み物代）
- ・ 昼食代 1350 円（1 日目のデニーズの昼食）
- ・ その他 約 6000 円（キャンピングカー内の 3 食分、＋飲み物・つまみなど）